

## 委員からの質問・意見（新規）

委員から文書で提出のあった質問・意見は添付のとおりです。

### 目次

(1)	道津 靖子 委員提出	2
(2)	塚原 千幸人 委員提出	4
(3)	神田 京子 委員提出	6

《BSL-4 室内での感染動物室の位置を確認》

BSL-4 施設を見学させてもらい、まだ BSL-4 室に機器類は無いが、ハード面の安全対策や不備時への二重の対策を実際に確認できたし、同時に感染症法に基づいた確実な機器管理が必須であると感じました。

また、住民が心配している感染動物の逸走であるが、中島先生から「実際に動物実験室を見て頂き説明させてほしい。」と言われていた。

実際に入室してみて、動物実験室は BSL-4 区域の一番奥に位置し、多数の厳重な仕掛けのある扉で隔絶されていたことを確認できた。BSL-4 室内で動物が逃げることはあっても危険なのは実験者のみ、動物だけでこれら複数の扉の仕組みをかいくぐることは不可能であり、さらにセキュリティのある BSL-4 施設の外（地域）に逃げ出すことは無理と理解した。

しかしながら、中島先生が仰るように、問題とすべきは感染動物（病原体としての取扱い）の盗取・盗難（テロ等への懸念事項）が住民への重大な伝達事項となることも再確認しました。

《住民への伝達手段》

- ① 火災・地震
- ② 実験者の病原体への暴露
- ③ 病原体の紛失・盗取・盗難

自然災害、ヒューマンエラー、施設の安全設備の異常、病原体の実験室外

への不法持ち出し、テロなどの事象発生時は、大学は感染症法に基づく措置、厚生労働省や警察、消防などへの通報に追われるでしょう。実験者が病原体による感染が疑われた場合、原因調査や接触者の確認などで混乱したなかで、地域への伝達手段が『事前登録者へのメールによる連絡』では地域への影響の有無の把握が難しいと思われます。地域住民は高齢者も多く PC での連絡以外も検討すべきと以前から指摘している。

伝達手段は、長崎県と市の防災危機管理室が機能しないとはじまらない。

県と市は①・②・③の緊急事態時にどの部署がどう大学と連携するのか？  
図式で説明していただきたい。地域連絡協議会で質問しても、どこがどのように対応するのか全く見えてこないなので、まず基本的な事から質問します。

《実験毎の安全管理手順について》

セキュリティ設備のひとつである認証システム（カード・テンキー・虹彩）で、BSL-4 施設への入室を管理するわけですが、実験前に行う実験室入室前チェック（自己申告＋相方＋管理者）は、どこで行いますか？

また、実験中の行動確認を、中央監視室で管理者が監視カメラで行うことになっていますが、管理者も BSL-4 施設入館資格が必要ですし、他県の研究者が実験しに来た時もずっと監視することになりますが、何人の管理者で実験毎の監視をするのですか？

以上

## 第 36 回地域連絡協議会に関して

- (1) 当日説明があった、滅菌に使用するオートクレーブの条件で 121℃とありますが、第一種感染症（特定 1 種病原体）の南米出血熱、ラッサ熱、エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、マールブルグ病の各々の死滅条件は何℃・何分間でしょうか。  
また、121℃は、死滅温度以上での安全サイトと考えますが、その温度は、オートクレーブの設定温度であるのか被処理物の内部温度でしょうか。
- (2) 火災対策で建屋内の特別な不燃材施工（臭素系難燃剤使用など）を壁や床、電力線などに延焼防止対策がしてあるのでしょうか。
- (3) 当日説明があった、火災や地震災害発生の際の地域への伝達順で第一報は、厚労省への報告や関係機関への連絡の後になっていましたが、消防署への通報、関係機関への連絡の直後の速い時間帯で地域伝達を TV や携帯電話、災害無線などでアラートを発して警戒を呼び掛けるべきではないでしょうか。
- (4) 感染性廃棄物は特定管理廃棄物として、マニフェスト伝票で処理されます。すでに大学病院でも日常的に医療廃棄物の廃棄処理を出されているので問題はないとは考えますが、運送業者、最終処理業者の実態は抜き打ち検査で確認して頂くようにお願いします。丸投げで任せっきりは、非常に危険だと考えます。信用しないようにしてください。  
問題発生時は排出側の責任が発生します。何故そう念押しするかと言えば、実際に国内でも河川の土手や埋め立て地が水害などで決壊したりすると、点滴や注射針など多量の医療廃棄物が発見される事象があるからです。

以上  
(2021/06/21)

○質問・意見

氏名（ 塚原 千幸人 ）

第 37 回地域連絡協議会（実験棟視察）に関して

(1) HEPA フィルターについて、

フィルター設置スペースでのダクト保温材布設については、外気温による結露防止と回答されましたが、フィルター素材はガラス繊維と思われ結露は問題ないのではと思います。

むしろ、ダクトの接続部を含めて保温材で覆うとブロワーの振動でボルトや接続部位の緩みに気付かない状態で使用してしまう可能性はないのでしょうか。パッキンの硬化劣化も気になります。

参考に、クリーンルーム比較で HEPA フィルター出口空気の清浄度クラスは何級相当の大気が排出されることになりますか。

また、HEPA フィルターの弱点（リスク）は、何か考えられるでしょうか。

以上

(2021/06/21)

## 1. 6/2（水）開催のBSL-4実験棟見学会に参加して：

地域連絡協議会において、これまで様々な形で説明を受けてきましたが、実際に見学してみて、予想を上回る設備を備えた安全な施設である事が分かりました。

今後、機器搬入・設置後、複数の稼働試験を行い、体制を整えていくことになるとは思いますが、これからが真の始まりだと考えますので、安全安心を忘れることなく対応していただきたいと思ひます。

## 2. 今後の対応について、次の通り要望致します。

- ① 工事完成で満足することなく、施設を最大限に活かしていけるように、これまで議論を行って決定したこと一つ一つの手順を確認して、今年度中に詳細の基準作成に向けた話し合いを協議会で行い、安全基準マニュアル及びチェックリストを纏めた文書を作成していただきたい。

実験棟の完成によりハード面での安全確保は出来ますが、ソフト面については、具体的な取扱いが決定されていません。

例えば、実験者は2人体制で実験を行いますが、チェックを行う項目について、実験中にはどのような方法でクリアしていくのか、自動的にクリアされて進んでいけるソフトを開発するのか、又、管理者による管理は実験中監視カメラで行うのか等、チェックの方法を検討する必要があると思ひます。

- ② 緊急事態への対応については、大学だけではなく、市役所、県庁、消防、警察、保健所、厚労省への対応が必要となってきます。特に市役所、県庁はBSL-4建設の容認にあたっては大学との3者協議を行っています。市民の生命を守るべき立場であるにもかかわらず、これまで何ら具体的な検討を行ってきませんでしたので、今後は積極的な検討と対応を行っていただきたい。
- ③ 地域住民は、施設に対する不安な気持ちのみならず、期待と要望も持っていることを忘れず、安全・安心・信頼を得る為に、住民はどのようなことを大学や行政に望んでいるのかを確認し、具体的な内容を協議会で話し合い、今後、良好な関係を維持することが出来るように努力していただきたい。